

蔵造りのレトロな商店街、入り組んだ狭い路地…三浦半島の先端に「昭和の街並み」

オトナの社会見学



蔵造りの葉山商店は、そば店に改装された



空き店舗を利用してオープンした「三浦ガラス工芸館 Kirari」

100年以上の歴史を持つ山田屋酒店。建物の一部は簡易宿泊所になった

遊興施設や遊郭も

◆三崎（みさき） 神奈川県三浦市南西部の太平洋に面した地域。かつては三

崎町だったが、1955年（昭30）の町村合併で、三浦市となった。古くから温暖で風光明媚（めいび）な地として知られ、鎌倉時代には源頼朝が3つの御所を建てた。明治以降、三崎港は遠洋漁業の拠点として栄え、港に近い三崎下町には遊興施設や遊郭もあったといふ。



1908年（明41）創業の老舗旅館「三崎館本店」 昭和の漁師町の風情が残る

目立つ若い女性の姿
蔵造りの街並みが、昭和の時代から現在まで変わらぬ風景を残す。この街並みは、多くの観光客を惹きつける大きな魅力だ。しかし、若い女性の姿を見ると、時代の流れを感じさせる。この街並みは、時代とともに変化していくが、その姿を今でも見ることができる。また、街並みの中には、昔ながらの喫茶店や雑貨店など、昔の風情を残す店舗もある。これらは、時代を超えて人々に愛される存在だ。

昭和の生活風景紹介
○…三崎下町には、昭和の生活風景と地元の伝統芸能を紹介する「チャッキラコ・三崎昭和館」がある。江戸時代から営業していた蔵造りの商店を利用した施設だ。日本間にはちゃんとあるようだ。倉橋氏は「古民家を改造した旅館をオープンする計画もあります。今は日帰りのお客さんが主流ですが、滞在して楽しんでもらえる街にしたいですね」と話した。

目立つ若い女性の姿

倉橋氏は「不動産で稼がせてもらっている立場として、何か役に立たせてもらえないかなと思ったんです。三崎下町は昭和の漁師町がそつくり残っている。東京のまねをして立派な施設を造るのではなく、既にありますインフラを再生させれば、新たな価値が生まれるのではないかと考えました」と言う。

倉橋氏は「商店街を歩くと、古い建物を買い、簡易宿泊所やそば店に変えた。三崎に近い城ヶ島のホテルを買収し、宿泊客を送迎バスで三崎下町に送っている。魚介を生かした三崎港ラーメンも開発した。花火大会やプロレス大会も開催した。まさに、あの手この手だ。

東京・品川から電車とバスで約1時間半、神奈川・三浦半島の先端に昭和そのものの街がある。三崎港の周辺に広がる通称「三崎下町」だ。蔵造りのレトロな商店街や入り組んだ狭い路地は、数多くの映画やドラマでロケに使われている。「マグロの街」として知られる三崎だが、人口減や高齢化などで、一時は商店街がシャッター通りと化していた。「昭和の街並み」をセルスピントにした地域活性化策が進行中で、観光地として新たな注目を浴びている。

ドラマや映画ロケ地

「三崎港」停留所でバスを降りると、目の前に懐かしい光景が広がっていた。蔵造りや木造のレトロな商店が、バスロータリーの周りを取り囲んでいる。

シヤッター通りが復活

「三崎港」停留所でバスを降りると、目の前に懐かしい光景が広がっていた。蔵造りや木造のレトロな商店が、バスロータリーの周りを取り囲んでいる。

「まるいち食堂」の鮮魚店には、水揚げされた地魚が並ぶ



地魚が味わえる
○…三崎は、地魚の種類が豊富なことでも知られる。この地魚を味わえる地元の人気店が「まるいち食堂」だ。鮮魚店が経営する食堂で、三崎港に水揚げされたばかりの新鮮な魚が、鮮魚店の店頭に並ぶ。お客様は好きな魚を購入し、刺し身、煮付け、塩焼きなど調理法を指定して、食堂で食べることができる。東京や横浜方面から訪れる人も多く、土日は長い列ができる。

